NHKアーカイブス保存映像のなかの鯨類ストランディング

宇仁 義和 [1)]　谷田部明子 [2)]　石川　創 [3)]

Cetacean strandings in the moving images of the NHK archives collections.

Yoshikazu Uni[1)], Akiko Yatabe[2)] and Hajime Ishikawa[3)]

要　旨

NHKアーカイブスの保存映像から鯨類ストランディングの記録を収集した。鯨類ストランディングを記録した映像は1957–1989年の33年間に31件32タイトルが得られた。内訳を見ると、種別では、ヒゲクジラはコククジラ1件のみ、残りはハクジラで、マッコウクジラ1、コマッコウ2、ツチクジラ属1、アカボウクジラ7、イチョウハクジラ2、シャチ2、コビレゴンドウ4、オキゴンドウ1、カズハゴンドウ1、ハナゴンドウ4、ハンドウイルカ1、マダライルカ1、セミイルカ1、カマイルカ1の14種と、種不明小型ハクジラ1が得られ、アカボウクジラが最も多かった。複数の種が一度に見られる事例はなかった。地域別では9道県、北海道1、茨城県3、千葉県8、神奈川県14、三重県1、愛知県1、兵庫県1、長崎県1、宮崎県1の記録があり、神奈川県が半数近くを占めた。記録地域の偏りはストランディングの頻度よりも、取材と放送の都合を反映していると考えられた。また、得られた記録のうち14件は新たに学会に報告されるものであった。併せて視聴したイルカ漁業の映像では、希なユメゴンドウの捕獲が静岡県富戸と和歌山県太地からそれぞれ1件あったことがわかった。

Abstract

We found 31 cetacean stranding events of 32 programs in the NHK Archives Collections (Kawaguchi City, Saitama Prefecture, Japan) from 1957 to 1989. One baleen whale and 14 toothed whale species (number) were identified from the events: gray whale *Eschrichtius robustus* (1), sperm whale *Physeter macrocephalus* (1), pygmy sperm whale *Kogia breviceps* (2), Cuvier's beaked whale *Ziphius cavirostris* (7), ginkgo-toothed beaked whale *Mesoplodon ginkgodens* (2), killer whale *Orcinus orca* (2), short-finned pilot whale *Globicephala macrorhynchus* (4), false killer whale *Pseudorca crassidens* (1), melon-headed whale *Peponocephala electra* (1), Risso's dolphin *Grampus griseus* (4), bottlenose dolphin *Tursiops truncatus* (1), pantropical spotted dolphin *Stenella attenuata* (1), northern right whale dolphin *Lissodelphis borealis* (1) and Pacific white-sided dolphin *Lagenorhynchus obliquidens* (1). One *Berardius* sp. was also recorded. These events occurred in 9 prefectures; Hokkaido (1), Ibaraki (3), Chiba (8), Kanagawa (14), Mie (1), Aichi (1), Hyogo (1), Nagasaki (1) and Miyazaki (1). Cuvier's beaked whale was the most frequent and all events of this species were recorded in Kanagawa prefecture. It seems the numbers in locality dose not reflect frequency distribution of the events because the data source (NHK Archives Collections) has principally collected Kanto area local news. Of 31 events, 14 were not listed in the stranding database of Whale Laboratory, Institute of Cetacean Research and National Museum of Nature and Science. Except for the stranding events, rare pygmy killer whales *Feresa attenuata* were recorded in dolphin fishery in Futo in Shizuoka and in Taiji in Wakayama prefectures.

はじめに

日本における座礁漂着個体や迷入個体などの鯨類ストランディングに関する記録収集は歴史が浅く、研究機関による収集は（旧）鯨類研究所によって1986年に始められ（加藤1986、石川1995）、次いで日本海セトロジー研究グループが1988年から収集している（山田1996）。それ以前の記録は、地方博物館や水族館などで散発的に収集報告される他は、地方新聞や全国紙の地方版などで報道される程度であった。これら地方に分散している記録を遡って調査することは実質的に困難で、例えば新聞の地方記事が検索可能なデータベース化されているのは多くの場合1980年代後半以降である。今回用いたNHKアーカイブスの保存番組は、テレビ放送開始時点の映像やそれ以前のニュース映画の映像から収集されており、加えてデータベースが整備されていることから検索による調査が可能である。映像によってはナレーション音声も残されている。これらの保存映像の多くは一般には非公開であるが、NHKアーカイブスの公募研究「学術研究トライアル」に採択されるとほとんどすべての保存映像が視聴でき、データベースの利用が可能となる。2013年に著者のひとり宇仁が応募した「映像資料を利用した水族館展示と鯨類飼育

1）東京農業大学生物産業学部 〒099-2493 北海道網走市八坂196
1） Faculty of Bioindustry, Tokyo University of Agriculture, 196 Yasaka, Abashiri, Hokkaido 099-2493, Japan.

2）東京海洋大学海洋科学系 〒108-8477 東京都港区港南4-5-7
2） Tokyo Univ. of Marine Science and Technology, 4-5-7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108-8477, Japan.

3）公益財団法人下関海洋科学アカデミー鯨類研究室 〒750-0036 山口県下関市あるかぽーと6-1
3） Whale Laboratory, Shimonoseki Academy of Marine Science, 6-1 Arcaport, Shimonoseki City, Yamaguchi 750-0036, Japan.

の歴史研究」が「学術研究トライアルII」に採択された（宇仁2014）。

本論は、NHKアーカイブスの保存映像から過去の鯨類ストランディング記録を収集し、既存のストランディングデータベース（石川ら2013）に記載されていない記録を発掘整理することで、鯨類学の研究資料を増加させることを目的とした。

資料と方法

調査の対象とした映像は、埼玉県川口市にあるNHKアーカイブスに保存された、NHKやNHKが引き継いだ日本ニュース映画社などの映像である。ただし、公募研究で採択されても視聴可能となるのは川口に保存された映像のみで、東京以外の地方局が保存する映像は視聴できない。そのため、実際に視聴した映像は、NHKの全国放送と関東ローカル放送であった。調査対象の年代は、記録が残っている1957年から、国立科学博物館によるストランディング調査が本格化する以前の1990年までとした。一方、データベースでは他の地方局保存映像のデータも検索可能で、保存局の番号、放送年月日、番組名、副題などを知ることができたが、映像の視聴ができないため調査対象とはしなかった。検索の方法はデータベースの項目のすべてを対象に、鯨類に関する検索語で実施した。NHKアーカイブスのウェブサイトでの検索で対象となる項目は「番組名」や「副題」などに限られるが、川口の端末では「内容」というコンテンツを書き出した項目まで検索の対象とすることができ、抽出される映像が格段に広がる。具体的な検索語は「鯨」「クジラ」「くじら」、「海豚」「イルカ」「いるか」、「シャチ」「スナメリ」、そして「水族館」の語を用いて検索した。そして番組名や副題の内容が本論の目的と合致する映像（以下、鯨類ストランディング映像）、すなわち、鯨類の座礁、漂着、迷入、捕鯨業やイルカ漁業以外での捕獲と思われる番組名や副題が記された映像を視聴した。本論で記述するのは、実際に視聴した鯨類ストランディング映像を原則とし、視聴しなかった映像については文献から内容が明らかなものだけを結果に含めた。また、イルカ漁業の捕獲個体で特筆すべきと思われるユメゴンドウに関した映像についても記述した。

視聴の方法は、著者の宇仁と谷田部の2人、この2人に日本鯨類研究所の大隅顧問を加えた3人、または宇仁1人が埼玉県川口市のNHKアーカイブスに出掛けて行なった。鯨種の判定は可能な範囲で映像から行なったほか、映像から判別が困難な場合はストランディングレコードの判定評価が「A」または「B」の（石川ら2013）の記載事項を採用した。また、視聴映像の背景事象については適宜文献を参照した。視聴した日付は、2013年4月12・15日、5月17・20・24・27日、6月21日、8月20日、2014年6月27・30日、7月4・7日の計12日間である。これらの視聴日には他の映像も含めて視聴している。

結果

検索語「クジラ」「くじら」「鯨」での抽出映像　NHKアーカイブスの保存映像を「クジラ」「くじら」「鯨」で検索して抽出された映像のうち、鯨類ストランディング映像は21件の事象で、1事象のみ2番組あったため番組としては22点だった。すべてが「NHKニュース」や「週間ニュース」などのニュース映像で、種別では5科9属9種、コククジラ1件、マッコウクジラ1件、コマッコウ2件、ツチクジラ属1件、アカボウクジラ7件、イチョウハクジラ1件、コビレゴンドウ4件、ハナゴンドウ2件、シャチ2件であった（表1）。映像に記録されたヒゲクジラは1件のみ、ハクジラでは和名に「イルカ」が付く種は見られなかった。地域別には北海道1件、関東18件（茨城3、千葉4、神奈川11）、中部1件（三重1）、近畿1件（兵庫）であり、東北や中国、四国、そして九州や沖縄の事例は得られなかった。事象としては座礁と漂着そして迷入が合わせて16件16点、捕獲や駆除が5件6点で、後者には1957年4月19日の瀬戸内海でのシャチ駆除1件2点、1965年4月15日の自衛隊によるハナゴンドウ駆除1件、漁船による1966年5月17日のコビレゴンドウ陸揚げ1件、1970年4月23日の東京湾でのシャチ駆除1件（内田1988）、1984年8月29日のサロマ湖でのツチクジラ属定置網混獲1件が含まれていた。これら21件の事象のうち、ストランディングレコード（石川ら2013）に掲載されたものは8件（RO–361、RO–019、RO–196、O–645、RO–243、O–214、RM–019、RO–267）であり、11件は既存のストランディングデータベースに登録されておらず、本学会に初めて報告されるものであった（1965年4月15日のハナゴンドウ、1966年5月17日・1970年6月10日・1980年9月14日のコビレゴンドウ、1966年9月1日・1971年9月20日・1977年1月11日・1978年6月14日・1981年7月7日・1985年3月26日のアカボウクジラ、1979年1月28日のマッコウクジラ）。残り2件のうち、1957年4月19日のシャチは神戸市立須磨海浜水族園に標本があり、1984年8月29日のツチクジラ属は1988年8月とされる同じサロマ湖でホタテ養殖施設での混獲O–425（石川ら2013: 109）と同一事象の可能性が考えられ、石川ら（2013）に非掲載であるが知られた、あるいはその可能性がある事象である。

検索語「海豚」「イルカ」「いるか」での抽出映像　一方、「イルカ」「いるか」「海豚」で検索して抽出された鯨類ストランディング映像は10件の事象で、番組名は「NHKニュース」や「ニュースウィークリー」などすべてニュースだった。種別では、2科8属8種で、イチョウハクジラ1、オキゴンドウ1、カズハゴンドウ1、ハナゴンドウ2、ハンドウイルカ1、マダライルカ1、セミイルカ1、カマイルカ1、そして不明小型ハクジラ1であった（表1）。このうち現用の和名に「イルカ」が付かないハクジラが半数の5件含まれていた。他方、日本で最もストランディングレコードが多いスナメリ（石川ら2013）を含むネズミイルカ科の事例は皆無

表1. NHKアーカイブスの鯨類ストランディング映像から観察された鯨類の種と頭数

放送年月日	番組副題	発生場所	判定鯨種	検索語	備考
1957/4/19	海のギャング シャチ退治	兵庫県神戸市	シャチ	クジラ	雄1雌1、4/12に「巡視船で鯨退治」として放送。雄の骨格は神戸市立須磨海浜水族園で展示中
1959/7/19	名古屋市内に迷い込んだイルカ	愛知県名古屋市	ハンドウイルカ	イルカ	運河のような場所で小舟から捕殺。岸や橋の上にはおおぜいの見物人
1965/4/15	東京湾で自衛艦が鯨とり	神奈川県横須賀市	ハナゴンドウ	クジラ	1頭。港内作業のフォークリフトに「日立田浦工場」と見え、横須賀市と判断
1966/5/17	大きなゴンドウクジラ4頭水揚げ	千葉県銚子市	コビレゴンドウ	クジラ	3頭以上映る
1966/9/1	葉山海岸に2頭のクジラ迷い込む	神奈川県葉山海岸	アカボウクジラ	クジラ	映像には1頭のみ。体表に傷多く、成雄か
1966/12/13	ゴンドウクジラ迷い込む	千葉県利根川河口*	コビレゴンドウ	クジラ	映像には8頭。RO-361、利根川河口一の島灯台近く100頭（石川ら2013：173）
1968/3/14	九十九里浜に珍しいイルカ	千葉県銚子市*	イチョウハクジラ*	イルカ	銚子市（石川ら2013）。Nishiwaki et al. 1972、RO-021
1968/8/23	海水浴客もびっくり鎌倉海岸にクジラ	神奈川県鎌倉市	イチョウハクジラ*	クジラ	1頭。RO-019、骨格は太地町立くじらの博物館（石川ら2013：126）
1970/4/23	東京湾にクジラの群れ５頭捕獲	千葉県市原市	シャチ	クジラ	映像では4頭以上、成雄1、雌1、幼獣の死体1。RO-196（石川ら2013：135）。内田（1988）に詳報
1970/6/10	クジラ47頭波崎海岸で生け捕り	茨城県波崎町	コビレゴンドウ	クジラ	数十頭が映る、トラックに「青野運送」の文字
1971/3/13	館山湾にイルカ　海に飛び込み生け捕り	千葉県館山市	ハナゴンドウ	イルカ	石川ら（2013）に類似事例の記載あり、本文参照
1971/9/20	小田原海岸でクジラ1頭つかまる	神奈川県小田原市	アカボウクジラ	クジラ	雄1、生殖溝確認、4.5 5m、場所不明だが建物などは映る。「ツチクジラ」（神奈川新聞1971.9.21）
1975/7/8	茅ヶ崎の海岸でマッコウクジラ生け捕り	神奈川県藤沢市	コマッコウ*	クジラ	1頭。O-645、江ノ島水族館で翌日死亡（石川ら2013：95）
1976/3/25	珍しいセミイルカが相模湾で生け捕り	神奈川県藤沢市	セミイルカ	イルカ	江ノ島水族館のプールで泳ぐ映像。O-646
1977/1/11	相模湾にアカボウクジラ	神奈川県小田原市*	アカボウクジラ	クジラ	成獣雌また映像とは別に雄のアカボウクジラ1頭も同日発見（神奈川新聞1977.1.12）
1978/6/14	アカボウクジラ　海岸に打ち上げられる	神奈川県小田原市	アカボウクジラ	クジラ	雄1頭
1978/8/25	流れ着いたクジラの親子	神奈川県三浦市	コマッコウ*	クジラ	母子。RO-243（石川ら2013：95）。三崎臨海実験所か、子クジラにプロペラ傷
1979/1/28	茨城の海岸に迷子のクジラ	茨城県北茨城市	マッコウクジラ	クジラ	1頭。体長6mほど
1979/11/7	小田原に13頭のクジラ迷い込む	神奈川県小田原市	アカボウクジラ	クジラ	映像には2頭。O-214、小田原市国府津?早川（相模湾）、13頭（石川ら2013：112）
1980/9/14	波崎海岸に鯨が漂着	茨城県波崎海岸	コビレゴンドウ	クジラ	495cm、映像のメジャーより
1981/7/7	アカボウクジラ打ち上げられる	神奈川県茅ヶ崎市*	アカボウクジラ	クジラ	雄1（映像でペニス露出）、体長5m（神奈川新聞1981.7.8）
1982/1/10	浜辺に打ち上げられたイルカの群れ	宮崎県青島海岸*	カズハゴンドウ	イルカ	宮崎市青島海岸135頭（石川ら2013）、RO-001
1982/4/22	35年ぶり伊勢湾にくじら　一か月以上棲みつく	三重県伊勢湾	コククジラ	クジラ	生存個体1頭。RM-019（石川ら2013：9）。映像では見物船が容赦なく何度も接近。
1982/7/14	横浜港にイルカ迷い込む	神奈川県横浜港	小型ハクジラ	イルカ	大型貨物船などが着く港。背ビレしか見えず
1984/8/29	サロマ湖に鯨	北海道サロマ湖	ツチクジラ属	クジラ	石川ら（2013）に類似事例の記載あり、本文参照
1985/3/26	小田原海岸に見慣れないクジラ	神奈川県小田原市	アカボウクジラ	クジラ	成獣1、歯は見えず、体長5m（神奈川新聞1985.3.26）
1986/9/16	120頭ものイルカの大群が打ち上げられる	長崎県壱岐	オキゴンドウ*	イルカ	壱岐郡石田町筒城（塩津浜）123頭（石川ら2013）、O-003
1987/7/8	ハナゴンドウクジラが海岸に漂着	千葉県館山市	ハナゴンドウ	クジラ	1頭、2mほど。RO-267、館山市砂浜、市役所処理（石川ら2013：163）
1988/11/20	千葉の運河に四頭のイルカが迷い込む２頭を救出	千葉県市原市	マダライルカ*	イルカ	市原市八幡運河4頭（死亡2生存2）（石川ら2013）、O-050
1989/5/2	千葉港にイルカが迷いこむ	千葉県千葉港	ハナゴンドウ	イルカ	1頭。背ビレと頭部映る。港内の建設作業場から撮影。見物人数名
1989/9/1	小田原港に住みついたイルカ捕獲して水族館へ	神奈川県小田原市	カマイルカ	イルカ	5月8日に定置網に混獲、8月31日に捕獲、江ノ島水族館へ移送（石川ら2013）、O-078

* は備考に示した文献からの引用による

だった。地域別では関東7件（千葉4、神奈川3）、中部1件（愛知）、九州2件（長崎、宮崎）で、関東以外の映像は、おおぜいの市民が見物した愛知のハンドウイルカと大群で漂着した長崎のオキゴンドウおよび宮崎のカズハゴンドウに限られた。これら10件の事象のうち、ストランディングレコード（石川ら2013）に掲載されたものは6件（RO-021、O-646、RO-001、O-003、O-050、O-078）であり、3件は本学会に初めて報告されるものであった（1959年7月19日のハンドウイルカ、1982年7月14日の小型ハクジラ、1989年5月2日のハナゴンドウ）。残る1件の1971年3月13日のハナゴンドウは、ストランディングレコードには日付が近い1971年3月12日にRO-264があるものの、場所と状況は「館山市砂浜に生存漂着後に死亡1頭」と記載されており、アーカイブ情報とは異なる。一方、ストランディングレコードRO-265は状況が「飼育後死亡」とアーカイブ情報と一致するが、日付と場所は「1971年10月22日鴨川市港内」（石川ら2013）と違いが見られ一致しない。1971年3月13日のハナゴンドウについては、すでに知られた事象であるが引用元文献の記述違いにより石川ら（2013）に記載されなかった可能性がある。

以上から、「クジラ」「くじら」「鯨」と「イルカ」「いるか」「海豚」を検索語にNHKアーカイブス保存映像から得られた鯨類ストランディング記録は合計31件32点であり、ストランディングレコード（石川ら2013）で登録番号が与えられた事例は14件、登録番号は与えられていないが水族館に記録があるもの1件、登録番号の元となった文献の記述違いの可能性があるもの2件、そして14件は新たな情報であることがわかった。種別では、ヒゲクジラは伊勢湾に迷入したコククジラ1件のみ、残りはハクジラで、件数はマッコウクジラ1、コマッコウ2、ツチクジラ属1、アカボウクジラ7、イチョウハクジラ2、コビレゴンドウ4、オキゴンドウ1、カズハゴンドウ1、シャチ2、ハナゴンドウ4、ハンドウイルカ1、マダライルカ1、セミイルカ1、カマイルカ1、不明小型ハクジラ1が得られ、これら14種のうちアカボウクジラが最も多かった。地域別では、北海道1、茨城県3、千葉県8、神奈川県14、三重県1、愛知県1、兵庫県1、長崎県1、宮崎県1と、神奈川県が半数近くを占めた。

その他の検索語での抽出　検索語「シャチ」「しゃち」「鯱」で抽出された映像には、城郭の鯱など本論とは無関係の映像がきわめて多く、鯨類のシャチの映像も1983年8月17日海外ニュース「シャチ捕獲をめぐる論争（アメリカ　サンディエゴ）」など捕獲を含め水族館の話題が大半であり、それ以外はシャチを用いたイルカ駆逐実験（1978年11月28日NHKニュース「イルカ撃退作戦（和歌山県太地町）」大阪局保存映像のため視聴できず）や南極海での映像（1981年5月22日ＮＨＫ特集「これが鯨だ！南極海に大群を追う」視聴せず）で、鯨類ストランディング映像は得られなかった。

検索語「スナメリ」は目撃情報や水族館の映像が大半であったが、生け捕りや救出を含め捕獲に関する映像が5件あった。番組はすべてNHKニュースで、放送年月日順に副題を列記すると1967年7月22日「海水浴場に珍客スナメリを捕まえる（千葉県）」、1979年1月11日「暖冬異変大阪湾でスナメリ捕まる」1983年7月13日、「スナメリの生けどり（宮城県松島町）」、1988年8月29日「スナメリの捕獲作戦（愛知県）」、1988年12月21日「埋立地のスナメリあす救出（福岡県北九州市）」であった。副題には明確な座礁漂着事例が見えず、大阪湾を除き意図的な捕獲と判断したこと、またスナメリは誤認がほとんど考えられないことから映像は視聴せず、表1にも含めなかった。なお、最後の事例はRO-294として知られている（石川ら2013）。

検索語「水族館」で抽出された映像には、鯨類ストランディング映像はまったく得られなかった。

イルカ漁業で捕獲されたユメゴンドウ　検索語「クジラ」によってイルカ追い込み漁でユメゴンドウが捕獲される映像が1件抽出された。これは1951年7月31日放送の日本ニュース戦後編第291号昭和26年「ごんどう鯨の生捕り（和歌山県太地町）」である（写真1）。映像には外部形態が「長さ3メートル重さ百貫のちいさい鯨」とのナレーションのとおり（宇仁2014）、人物と比較して多くの個体が3m弱と見られるクジラが映り、それを越える体長の個体が皆無であること、口には上下に歯があり数がカズハゴンドウほど多くはないこと、唇部分が角度や光の具合によっては白く見えること、さらに背ビレの形態的特徴からユメゴンドウと判断した。太地町のイルカ追い込み漁の捕獲対象種は、コビレゴンドウ、オキゴンドウ、ハナゴンドウ、ハンドウイルカ、スジイルカ、マダライルカなどであり、ユメゴンドウは知られていない（粕谷2011: 118–128）。和歌山県でのユメゴンドウのストランディングの記録もないことから（石川ら、2013）、非常に珍しい捕獲と考えられた。仮に、映像の個体がカズハゴンドウだとしても、これまで報告のなかった事例である。

検索語「水族館」では1963年2月3日NHK週間ニュース「雪まつりとユメゴンドウ」が得られた。映像には海岸で網のようなもので仕切られた生けすの中にいるユメゴンドウの群れ、それらを「伊東水族館／イルカ輸送車」という横断幕を掲げた

写真1. NHKアーカイブス保存映像に記録された和歌山県太地のイルカ追い込み漁。体長などからユメゴンドウの可能性が高いと判断した（日本ニュース戦後編第291号「ごんどう鯨の生捕り」1951年7月31日）

トラックに乗せ伊東水族館のプールに運び込む様子が映り、プールの群れを見る故・西脇昌治博士の姿も確認された。1963年と比較的古い年代にも関わらず、ユメゴンドウと珍しい種類のクジラを特定しているのは、飼育を目的に持ち込まれた伊東水族館が的確に識別したことによる。当時、同水族館に勤務していた沖縄美ら海水族館の内田詮三名誉館長によれば、ユメゴンドウと知りトラックで市内を宣伝して歩いたという（2013年9月9日聞き取り）。内田（2012: 122, 135–136）によると、捕獲は伊豆半島伊東の富戸沖で頭数は14頭である。粕谷（2011: 115）でも、伊豆半島のイルカ漁業でユメゴンドウが捕獲されたのはこの1回のみを挙げている。

ストランディングに対する人びとの態度　海岸への漂着個体の見物人が個体の上に立つ姿や蹴る様子が1966年9月1日のアカボウクジラの映像で見られた。1982年4月22日のコククジラ映像では、迷入個体を観察するボートが個体の数メートルの距離まで近づく様子が記録されている。一方、計測など調査の様子が記録された映像は1980年9月14日のコビレゴンドウ1件のみであった。

考察

ここでは3つの考察を行なう。地理的の分布、記録種の特徴、そして鯨類に対する態度の変化である。

地理的分布については、今回調査したNHKアーカイブの資料が全国ニュースと関東のローカルニュースに限定されていることから、視聴映像は実質的に情報がほぼ関東に限られており全国的な考察はできないが、撮影地の分布は神奈川県が31件中14件と半数近くを占めた。これは、実際の鯨類ストランディングの発生件数をそのまま反映しているというより、海岸に水族館が複数存在することや、地方局所在地からアクセスが容易なこと、さらに地域の話題の取材を目的に撮影班がもともと近くにいた可能性など、撮影者側の事情が大きいことも考えられる。

記録種の特徴は、本論で報告した映像では、座礁漂着事象は全件がハクジラでヒゲクジラは愛知県のコククジラのみだった。全国的にはヒゲクジラ類のストランディングはミンククジラが最も多いと考えられるが（石川ら2013）、関東周辺ではミンククジラのストランディング事例は比較的少ない。またニュースになりやすい生存個体の座礁がハクジラ類に多いのに比べ、ヒゲクジラ類のストランディングは腐敗した死体の漂着が多いことも、映像資料の少ない要因の一つであろう。一方、茨城県波崎町（現：神栖市）を含む鹿島灘沿岸から千葉県九十九里浜でのマスストランディングは、近年ではほぼすべてカズハゴンドウであるのに対し（石川ら2013）、NHKアーカイブスの1970–80年代の保存映像にはコビレゴンドウのマスストランディングが見られ、近海に分布する鯨種相に変化が起きている可能性も示された。県別件数が最も多かった神奈川県では、相模湾でのアカボウクジラの座礁漂着事例が目立った。アカボウクジラは1960年代から1990年頃まで、相模湾や駿河湾でマスストランディングがしばしば発生したが（石川ら2013）、原因はわかっていない。

現用和名にイルカが用いられた種の映像に、座礁や漂着の事象が含まれないのは、報道機関に通報がされない、されても取材対象とされないなど、クジラに比較してニュース性が不足しているからと想像される。注意すべき点として、番組副題が「クジラ」や「イルカ」と具体的な種名が不明な場合や種名の誤りや今日の用法とは異なる場合も見られることである。1975年7月8日「茅ヶ崎の海岸でマッコウクジラ生け捕り」は実際にはコマッコウであり、1968年3月14日の「イルカ」は実際にはイチョウハクジラだった。映像アーカイブから実際の種名を知るには映像の視聴が必要である。

今回視聴した映像は結果に示したものだけで1957年から1989年と40年以上にわたり、その間の人びとの鯨類に対する態度の変化も同時に知るところとなった。結果に示した事象のうち古い方から3件、すなわち1950年代の2件はシャチとハンドウイルカの、1965年の映像はハナゴンドウの駆除目的の捕獲であった。シャチの駆除は1970年の映像にも現れるほか、1966年にはコビレゴンドウの座礁個体を生きたまま捕獲して陸揚げする様子、1970年にもおなじくコビレゴンドウの生存個体を陸揚げして土に埋める映像があった。このような駆除や生き埋めの映像は、1970年を最後に見られなくなる。少なくとも鯨類の駆除や座礁した生存個体を陸揚げする映像をテレビで放送することはされなくなった。漂着個体に対しても、1966年のアカボウクジラでは鯨体の上に立ったり、蹴り上げたりする様子が見られたが、その後の映像では見られない。1970年代になると座礁や迷入個体を水族館に持ち込み飼育を試みる映像が目立ち、人びとの鯨類に対する態度は敵対的なものから友好的なものに変化しているように見える。しかしながら映像には、本格的な調査の様子は見られず、わずかに体長をメジャーで計測する事例が1980年の1件のみ現れる。1950年代から1980年代の間に、人びとのストランディング鯨類に対する態度の変化は、駆除対象や食糧とする見方から、愛玩的な態度へと変化したが、積極的に調査研究に取り組もうという科学的態度は未形成だったといえよう。

ところで、NHKアーカイブス保存映像を2013年6月21日に「ストランディング」で検索したところ、抽出されたのは地方局保存を含め2003–2005年に5件、番組副題に使用された事例は1件あるだけだった。列記すると、2003年8月25日視点・論点「クジラ・イルカのストランディング」、2005年6月25日サイエンスZERO「イルカ・クジラ漂着の謎」、2005年7月9日NHKニュース「沼津市の海岸に打ち上げられたクジラ2頭が死亡（静岡県

沼津市）」、2005年11月19日サイエンスZERO「ZEROからまなべスペシャル　生物の異変に迫る」、2005年12月10日NHKニュース「沼津市の海岸に体長4メートルのクジラの子どもが打ち上げられる（静岡県沼津市）」であった（2005年の沼津の2件は名古屋局保存映像）。このことは、ストランディングという言葉はいまだ一般に認知された言葉ではないことを示している。今後、この言葉を継続して使用するか、それとも座礁漂着鯨類という日本語を使用するのかを考えることも必要かも知れない。

おわりに

今回視聴したNHKアーカイブスの保存映像には、学会に初めて知られる事例が含まれるなど鯨類学から見て価値のある記録が含まれていた。映像は放送年月日や撮影地などのメタデータが比較的充実しており、それをもとに地方新聞などより詳しい情報にアクセスすることが容易である。ストランディングに限らず、鯨類学に関してさまざまな面から利用ができる可能性がある。さらに、水族館や博物館の展示でも有用である。たとえば、1957年4月12日と19日放送のシャチの骨格標本は神戸市立須磨海浜水族園で、1968年8月23日放送のイチョウハクジラは太地町立くじらの博物館でそれぞれ常設展示されている。展示資料として保存映像を使用することができれば、標本の来歴や鯨類に対する認識の歴史的変化を知ることになり教育的効果が大きい（宇仁2014）。将来的には、NHKアーカイブスの保存映像が博物館などの教育機関で使用可能になることが望ましいと考える。

謝辞

本論を作成するにあたり NHK アーカイブス、同アーカイブスの阿部靖彦氏と豊島圭子氏にたいへんお世話になりました。また、内田詮三沖縄美ら海水族館名誉館長には貴重な証言を、大隅清治日本鯨類研究所顧問には有益な助言をいただきました。心よりお礼申し上げます。なお、この調査は科学研究費補助金「もうひとつの近代鯨類学「第一鯨学」の形成と展開」（基盤研究C: 2011–2013、課題番号23501209）および「明治大正期に遡る一次資料「事業場長必携」を用いた東洋捕鯨の操業復元」（基盤研究C: 2014–2016、課題番号26350365）を得て行いました。

引用文献

石川創（1995）ストランディングレコードから見た日本沿岸の鯨類の生態（I）. 鯨研通信, 387: 1–7.

石川創・後藤睦夫・茂越敏弘（2013）日本沿岸のストランディングレコード（1901～2012）. 下関鯨類研究室報告No. 1. 314pp. 下関海洋科学アカデミー鯨類研究室.

神奈川新聞. 1977.1.12 ポケットベル「哀れ夫婦クジラ」

神奈川新聞. 1981.7.8 紫外線

神奈川新聞. 1985.3.26 悩みつきぬクジラの"処遇"

粕谷俊雄（2011）. イルカ追い込み漁. イルカ　小型鯨類の保全生物学. pp 85–131. 東京大学出版会. 東京. 640pp.

加藤秀弘（1986）ストランディング・レコード1. 鯨研通信, 364: 50.

内田詮三（2012）沖縄美ら海水族館が日本一になった理由. 光文社. 東京. 229pp.

内田恒洋（1988）男がほれたシャチ野郎. 成山堂. 東京. 206pp.

宇仁義和（2014）NHKアーカイブス保存映像の文化人類族学的調査の可能性. 北海道民族学, 10: 77–86.

山田格（1996）訳者まえがき. ストランディングフィールドガイド海の哺乳類. pp xi–xiii. 海游舎. 東京. 345pp.